

整 形 外 科

1. 臨床医学教育の現状と評価

(1) 臨床医学教育の目標

- 1) 整形外科医としての基本的な知識・技術を習得させる。
- 2) 臨床医としての基本的な姿勢・態度を習得させる。
- 3) 周術期管理や多発外傷などにおける全身管理を習得させる。
- 4) 患者さんの心が理解できる医師を育成する。

(2) 医員、医員（研修医）の現状と研修実績

1) 初期研修医の現状について

a. 研修実績について（対象期間：平成9年度－12年度）

入局者数と本院での研修期間（月数：平均値）

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
入局者数	7人	5人	6人	5人
研修期間	14ヶ月	14ヶ月	14ヶ月	14ヶ月

b. ローテート方式研修の実績

平成9年度：0人

平成10年度：0人

平成11年度：0人

平成12年度：0人

2) 医員の受入れ状況（対象期間：平成9年度－12年度）

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
採用者数	5人	5人	2人	3人

(3) 指導体制について

- 1) 研修医1年目は基本的に附属病院勤務とし、主治医の下で担当医として入院患者を直接受け持ち、関節外科・脊椎外科・手の外科等の分野での基本的な診療法を指導する。
- 2) 2年目には基本的に教育効果の高い関連病院で診療科長のもと研修を行う。このときに内科を含めた他科の領域の研修も行なう。
- 3) 研修医の間に学会での発表および論文の投稿法など含め指導する。

(4) 研修の評価について

日本整形外科学会が定めた6年間の必修研修項目を参考にし、整形外科学講座独自に行っている。

(5) 関連研修施設の現状

- 1) 九州労災病院 2) 福岡整形外科病院 3) 熊本整形外科病院 4) 川崎整形外科病院
- 5) 轟木整形外科病院 6) 山香町立病院 7) 東国東広域病院 8) 新別府病院
- 9) 厚生連鶴見病院 10) 別府中村病院 11) 別府発達医療センター
- 12) 湯布院厚生年金病院 13) 国立大分病院 14) 大分中村病院 15) 明野中央病院

- 16) 天心堂へつぎ病院 17) アルメイダ病院 18) 三愛病院 19) 杉村記念病院
20) 岡病院 21) 佐賀関町立病院 22) 県立三重病院 23) 緒方町立病院 24) 大久保病院
25) 臼杵医師会立コスモス病院 26) 津久見中央病院 27) 南海病院 28) 西田病院

(6) 臨床教授

佐竹 孝之(別府発達医療センター所長 整形外科)

(7) 認定医・専門医・指導医の取得状況(平成9年度-12年度)

- 1) 日本整形外科学会/専門医16名
2) 日本リウマチ学会/認定医2名
3) 日本リハビリテーション学会/認定医1名

(8) 学会認定施設の状況

日本整形外科学会認定施設

※今後の課題と改善策

・日本リハビリテーション、日本リウマチ学会認定医が少ないので増員。

2. 臨床医学研究の現状と評価

(1) 臨床医学研究の目標

基礎的医学研究に精通し臨床医として医学及び医療の進歩に貢献できるような研究を行っていく。

(2) 研究スタッフ

教授 1名、助教授 1名、講師 2名、助手 5名
実験助手(非常勤職員を含む) 1名
事務職員(非常勤職員を含む) 3名

(3) 研究領域と研究課題(対象期間:平成9年度-12年度)

主な研究課題

コンピュータによる関節形成術の効果の解析、骨・関節破戒の細胞メカニズムの解明、乾燥・凍結骨移植法の効果、スポーツ外傷における関節軟骨破壊のメカニズム

※今後の課題と改善策

これまで蓄積してきたデータをさらに発展させ臨床面で役立てるような結果を研究成果として発表していきたい。

(4) 博士(医学)の学位の取得状況(平成9年度-12年度)

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
取得者数	2名	0名	0名	1名

(5) 学会、研究会活動（シンポジウム、特別講演、学会役職等）

シンポジウム司会等多数

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
学会発表 (国際)	0回	8回	0回	6回
(国内)	18回	56回	44回	41回
(地方)	6回	10回	9回	10回
(司会・座長)	10回	16回	18回	19回
シンポジウム特別講演				
(国際)	2回	0回	0回	0回
(国内)	2回	4回	3回	7回
(地方)	3回	6回	10回	15回
(司会・座長)	6回	8回	7回	8回

学会役職（評議員、理事等）（平成9年度－平成12年度）	
日本整形外科学会	鳥巢岳彦（評議員）
日本リウマチ学会	鳥巢岳彦（評議員、理事）
日本災害医学会	鳥巢岳彦（評議員）
日本リウマチ関節外科学会	鳥巢岳彦（評議員）
日本手の外科学会	鳥巢岳彦（評議員）
日本リハビリテーション学会	鳥巢岳彦（評議員）
日本股関節学会	鳥巢岳彦（評議員）
日本スポーツ治療医学研究会	鳥巢岳彦（評議員）

(6) 研究論文（英文、和文）（平成9年度－12年度）

1) Hirayama T., Fujikawa Y., Itonaga I., Torisu T.

Effect of particle size on macrophage-osteoclast differentiation in vitro J Orthop Sci
6 : 53-58, 2001

2) Taira H., Takasita M., Yoshida S., Takita C., Tsumura H., Torisu T

MR appearance of paraganglioma of the cauda equina, Acta Radiologica 41 : 27-30, 2000

3) Takasita T., Tsumura H., Kataoka M., Yoshida S., Torisu T.

Delayed Paraplegia Caused by the Gradual Collapse of an Infected Vertebra Clinical Orthopaedics and Related Research, 373 : 248-251, 2000

4) Itonaga I, Fujikawa Y, Sabokbar A, Murray DW, Athanasou NA.

Rheumatoid arthritis synovial macrophage-osteoclast differentiation is osteoprotegerin ligand-dependent. J Pathol, 192 (1) : 97-104, 2000

5) Kataoka M., Torisu T., Tsumura H., Hirayama T., Fujikawa Y

Role of multinuclear cells in granulation tissue in osteomyelitis. immunohistochemistry in 66 patients. Acta Orthop Scand 71 (4) : 414-418, 2000

6) Takasita M, Matsumoto H, Uchinou S, Tsumura H

Atlantoaxial subluxation associated with ossification of posterior longitudinal ligament of the cervical spine Spine, 25 (16) : 2133-6, 2000

7) Taira H., Takasita M., Yoshida S., Tsumura H., Torisu T.:

Extraosseous calcified plasmacytoma causing thoracic myelopathy Skeletal Radiology 2

8 : 347-349, 1999

8) Fhujikawa Y, Shingu M, Torisu T, Itonaga I, Masumi S :

Synovial fluid and serum levels of soluble interleukin-6 receptor in patients with rheumatoid arthritis. Jpn J Rheumatol. 8 (1) : 27-36, 1998

9) Itonaga I, Kato S., Torisu T., Masumi S.

Experimental study of drainage and granulation in response to the intraarticular injection of particles in rat knee joints. J. Orthop. Sci., 2 : 24-30, 1997

10) Torisu T., Yosida S., Takasita M.

Painful snapping in rheumatoid knees. International Orthopaedics, 21 : 361-363, 1997

(7) 高度先進医療開発研究の現状

新しい人工関節の開発

※今後の課題と改善策

・研究成果を発表していきたい。

3. 診療の現状と評価

(1) 診療の目標

高度化する医療への対応

地域医療への貢献

(2) 診療実績 (平成9年度-12年度)

区 分	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
外 来 患 者 数	12,984人	14,633人	14,241人	15,224人
初 診 患 者 数	1,118人	1,077人	967人	1,107人
紹 介 患 者 数	332人	362人	367人	380人
入 院 患 者 数	15,101人	15,492人	16,049人	16,037人
平 均 在 院 日 数	42.9日	37.4日	38.9日	31.5日
平均病床稼働率	98.5%	101.1%	104.4%	104.6%
死 亡 退 院 率	1.2%	0.8%	1.5%	2.2%
剖 検 率	25.0%	66.7%	16.7%	18.2%

(3) 特殊検査・手術症例等

手術件数 平均420件/年

(4) 特殊専門外来

なし

(5) 高度先進医療・先端医療の導入

コンピューター支援手術器械システムの導入

※今後の課題と改善策

・後方関連病院を充実させて長期入院症例を減らせればと考えている。

4. 国際交流について（平成9年度～12年度）

（1）国際医療協力体制

（2）留学（長期外国出張）

- 1) Oxford大学（英国） 平成9年10月～平成10年9月 1名
- 2) Oxford大学（英国） 平成10年7月～平成11年6月 1名
- 3) Oxford大学（英国） 平成11年6月～平成12年7月 1名
- 4) Oxford大学（英国） 平成12年6月～ 1名
- 5) Kansas大学（米国） 平成12年7月～平成12年8月 1名
- 6) Tronto大学（カナダ） 平成12年10月～平成12年12月 1名

（3）外国出張（国際学会活動など）

- 1) 平成9年
国際バイポーラ人工関節学会 イタリア 1名
- 2) 平成10年
英国整形外科学会 英国 2名
- 3) 平成11年
なし
- 4) 平成12年
日米合同手の外科学会 米国 4名
アジア太平洋リウマチ学会 中国 5名

（4）外国人研究者の受け入れ状況

年 度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
目 的	研 究			研 究
受入人数	3名			1名
出身国名	米 国			中 国
滞在期間	2週間			6ヶ月
費用負担	自 費			国 費

※今後の課題と改善策

- ・海外からの留学生との交流をすすめる。

5. 国内学会や研究会の開催（平成9年度～12年度）

診療科で担当した地方学会・研究会、全国規模の学会・研究会

学 会 等 の 名 称	開催期日	参加人員	発表形式	その他
九州スポーツ医科学研究会	H11.12.4	約100名	口 演	
九州手の外科学研究会	H12. 2.5	約100名	口 演	
日本臨床リウマチ学会	H12.12.6	約500名	口演、ポスター	

※今後の課題と改善策

6. 地域との関わり

診療科で担当した大分県内の研修会、研究会について

研修会等の名称	開催頻度	参加人員	発表形式	認定医資格継続適合の有無
大分県整形外科医会	4回／年	50名	口 演	有
大分県リウマチ懇話会	1回／年	40名	口 演	有
大分県臨床整形外科医会	1回／年	50名	口 演	有
大分県膝関節研究会	6回／年	30名	口 演	無
大分県脊椎研究会	6回／年	30名	口 演	無
じっと手をみる会	6回／年	20名	口 演	有

※今後の課題と改善策

県内整形外科医との連携を深めること。

7. 診療科の特色

関節外科、脊椎外科、骨軟部腫瘍、手の外科、小児整形外科といった整形外科領域を広く網羅した診療を行う。

8. 将来展望

個々の領域に於て若手医師の育成を図ること。